

国葬反対「8割が大陸から」投稿は撤回

三重県議、説明拒む

三重県的小林貴虎県議が自民党が6日、津市内で会見し「国葬反対のSNS発信の8割が隣の大陸からだった」という分析が出ているという」などとするツイッターへの一連の投稿を、誤りだとして撤回した。一時は高市早苗・経済安保担当相の講演から引用したと主張していたが、何を誤ったかの説明は拒み続けた。

小林氏は50分弱の会見で、少なくとも16回にわたって「差し控える」「や」控える」と繰り返し返した。質問に謝罪で応じ、回答を避ける場面も目立った。

小林氏は2日に「8割が隣の大陸」と投稿。4日には報道陣に、名古屋市内で2日にあった高市氏の講演内容から引用したと主張し、改めて「高市早苗先生が、政府の調査結果としてお伝えいただいた内容です」と投稿した。

6日の会見冒頭では「発言を訂正し、おわび申し上げたい」としたが、何を訂正するかは、講演会が非公開だったとして回答を拒否。重ねて問われると、自民党関係者と目線を合わせてから「撤回したい」と改め、一連の投稿を5日夜に削除

したことも明らかにした。

誤りは同じ講演を聞いた他の出席者の記録と、自分のメモをすりあわせて気づいたとし、「圧力はない。本心からだ」と主張。自身の責任については「党の指示を待つ」として、辞職の考えはないとした。高市氏の事務所にはおわびの連絡をしたという。また、小林氏のツイッターは5日夜から非公開となっているが、「多くの方にご迷惑をおかけしたので」と説明した。

名城大の昇秀樹教授（地方自治論）は、「なぜ一度公開した投稿内容を、後に改めて撤回したのかを話さない」と、説明責任を果たしたことはない」と、小林氏の姿勢を疑問視する。（山本知弘、関謙次）